

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：34302

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26570013

研究課題名(和文)考古学と博物館学をメディエーターとした実践的地域研究

研究課題名(英文) Practical research of public policy of regional society in Nicaragua through the archaeology and museology

研究代表者

南 博史(MINAMI, HIROSHI)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：00124321

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：考古学と博物館学、および文化財ガバナンス構築に向けた研究である。ニカラグア考古学初の集落研究であり、マウンドの配置とその内側に広場の空間があることを明らかにした。また、マウンド1がキラグア山系を背景として広場モノリートの前面にあること、階段状ピラミッドであることから、太陽や月などと関連した儀礼を行う祭壇と推定した。

博物館活動を通して、考古学調査の成果を市民やティエラブランカ地区住民に普及し、その効果をみるアンケート、ワークショップ調査を行なった。プロジェクトへの信頼度が高く、地域住民が主体となった地域の文化財の発見・保存・活用の仕組み(文化財ガバナンス)に向けた一歩となった。

研究成果の概要(英文)： This study is a research for the archeology and museology and cultural heritage governance policy. This is the first research of settlements pattern of archeology in Nicaragua, it was found that there is a square spatial arrangement of mounds and on its inner side. In addition, mound 1 has been built in front of the square and the Monorito as background Kiragua Mountains. It is a stepped pyramid. And it was to be the altar to perform the rituals associated with the movement of the sun and the moon and planets. Through the museum activities, we announced the results of the archaeological survey to Matiguas citizens and Tierra Blanca district residents. And carried out a questionnaire and workshops survey to see its effect. As a result, it became clear that reliability is high in the project. We want to make the discovery, preservation and utilization of the mechanism of the cultural heritage of the region in which local residents were mainly (cultural property governance).

研究分野：考古学・総合政策科学

キーワード：ニカラグア考古学 集落研究 博物館学 内発的開発 ガバナンス 文化財 コミュニティミュージアム

### 1. 研究開始当初の背景

(1)学術的背景 一つは、考古学の方法や成果を現在の社会に役立てるパブリック考古学研究は中米地域においても近年盛んであるが、地域社会の課題解決に対して考古学と博物館学からアプローチする実証的な研究は行われていない。二つ目は、古代メソアメリカ地域に比土器編年や集落研究が不十分である現地において、調査地では国立自治大学の踏査によって、紀元前 500 年から 1500 年頃の土器が継続的みられること、他地域～ニカラグアの太平洋からカリブ海地域、ホンジュラスおよびエルサルバドル～のものと類似した土器が確認されていることである。ホンジュラス、エルサルバドルの各地域に属する集団の間で交流があったことや集団が初期から移動・定着していた可能性が指摘されている。

(2)社会的背景 国民の約 8%にあたる先住民が太平洋側とカリブ海側にいるとされるが、北部の実態はよくわかっていない。また、この地区周辺は主産業の農牧業による自然破壊が進んでおり、先住民文化が見えにくい状態となっている。

(3)国際共同研究を進める背景 京都外国語大学にニカラグア名誉領事館が設置されたことを経緯として、ニカラグア国立自治大学とマタガルパ県の NGO ニカラグア開発支援協会 (ANIDES) との先住民文化の理解を進める共同研究を開始した。

### 2. 研究の目的

考古学と博物館学を仲介者として、地域の課題を発見し解決するための実証的研究を行い、地域を博物館と見立て、地域文化に立脚した持続可能な地域社会モデルをつくる。具体的には、下記の目標を達成することによって、考古学および博物館学を通して地域の課題を解決していける新たな実践的研究者や専門家、理論的な知識だけでなく、地域に密着し、実践的な経験と豊かな知識を総合的に活用して課題解決にあたる人材の育成にもつながる。

(1)発掘調査を実施し先住民文化の資料を収集

この地域は古代メソアメリカ文化領域と古代アンデス文化領域に挟まれた地域であり、神殿などの建造物、王権や支配者層を表象する遺物・墓などで代表される両文明のような明確な統治体制を持った国が生まれた様子はない。一方で両文明に特徴的な威信材である古代メソアメリカのヒスイや古代アンデスの金製品が発見されており、両文明となんらかの関係にあったこと、さらには新大陸における初期文明の起源を考えるうえでヒントが隠されているのではないかと考える。

(2)社会実験的なコミュニティ・ミュージアム活動の開始

こうして発見された先住民文化の価値は、

その地域の文化アイデンティティの強化を図る運動の基礎になり、さまざまな地域課題に対して住民が主体となった地域活動を促すことができる。

(3)地域課題解決型プロジェクトへの展開

考古遺産を経済価値優先の単なる観光資産としてのみ位置づける消費型の観光政策に対して、住民主体の持続可能(循環型)な観光開発への新しいアプローチの方法を促進させることができる。

(4)研究プロセスを含め新しい地域研究モデルを提案する。

### 3. 研究の方法

(1)ティエラブランカ地区ラスベガス遺跡において発掘調査を実施。出土した資料は現地で基礎的整理を行い、分析は主に国内で実施する。

(2)ANIDES と協働して同地区内の先住民文化資料の収集・分析に努める。地域資産や課題を発見する活動を実施、コミュニティ・ミュージアムについての理解を広げる。

(3)活動の成果を踏まえた地域課題解決型プロジェクトを立ちあげる。

(4)現地での報告会、国内での展示会を通してその成果を地域、学界へ提案する。最終、マティグアス郡 25 地区長に対し、新しい地域活性化モデルとして研究成果を報告する。

### 4. 研究成果

(1)研究の主な成果 - 考古学

プロジェクト・マティグアスによる発掘調査の対象としたフィンカ・ラスベガス (MATI-1:ラスベガス遺跡)の考古学調査の目的は、遺跡の範囲を確定させ、遺構を測量して分布・配置を明らかにすること、遺跡内に分布する遺構(マウンド)の発掘調査を行い遺跡の性格を明らかにすること、層位的な発掘によって土器を編年し、メソアメリカ文明圏から近隣地域の編年と比較し、その相対的な位置を明らかにすることである。

測量調査とその成果

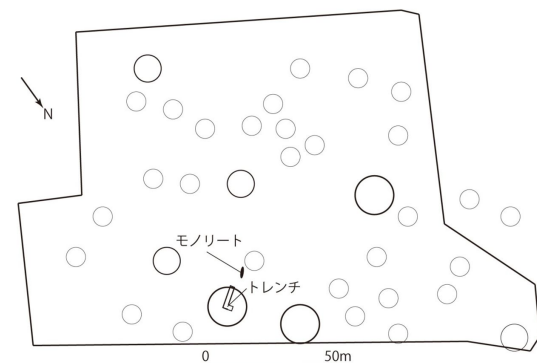


図1 ラスベガス遺跡マウンド配置図

遺跡の範囲確認のための測量調査と正確なマウンドの配置を測量し、マウンド配置図(図1)を作成した。その結果、直径 20m をこえる大型のマウンドがほぼ中央部に集まっていることと、その内側に縦横 40-50m の

広場的空間があることがわかった。この北側には長さ4.5mのモノリット(装飾付き石柱)が倒れており注目できる。また、高さが50cm以下の低いマウンドも確認できた結果、マウンドは40基となった。また、マウンドのほかに新たに集石遺構を確認した。

#### 考古学調査とその成果

遺跡の中でもっとも北側にあつて大型のマウンド1の発掘調査を行った。マウンドの頂部から裾部にかけて試掘坑では直線的な石壁が2列確認しており、このマウンドは平面四角形で2～3段のピラミッド階段状になっていることがわかった。また、マウンド頂部では長軸が北の方向を指している集石1とその周辺にも長さ60cmほどのモノリット状のものが確認された。

マウンド1が遺跡内で一番北側にあつて、広場モノリットとマウンド1、そして背景のキラグア山系山並みとの位置関係から、このマウンドが太陽や月などの動きと結び付いた儀礼を行う祭壇であるという仮説をたてている。今後もマウンド頂部における遺構の調査、裾部の調査によるモノリットとの関係を明らかにすることが今後の重要な課題である。

#### (2) 研究の主な成果 - 博物館学

##### 地域活動の課題

ラスベガス遺跡の考古学調査の成果を、博物館活動(ワークショップや写真展、発掘現場見学・体験など2014年以来10回開催)を通してマティグアス市民やティエラブランカ地区住民に普及することでどのような効果が期待できるか、とくに文化財の価値の再発見に繋げていく方法の研究を行なった。マティグアス郡の各地区長・マティグアス市民・ティエラブランカ地区住民など各アクターへの活動報告やアンケート調査を通して、考古学を仲介者とした地道な住民との交流が、地域の文化財やプロジェクトへの関心を高めることを立証しようとするものである。

#### アンケート調査の実施「マティグアス公立文化センターで開催したマティグアス市民を対象とする調査報告会・写真展に関するアンケート」

マティグアス市の文化センターにて、一般の市民を対象とした調査報告会とそれにあ

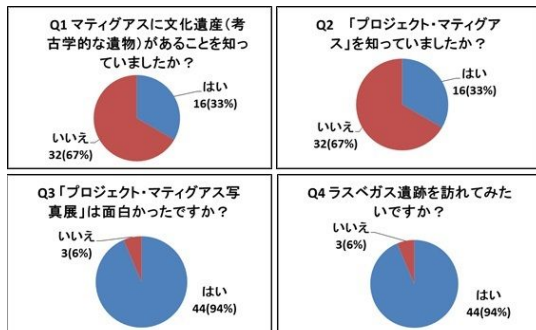


表1 写真展アンケート集計表

わせて会場の一部で写真展(2015年2月21日～2月27日)を開催した。あわせて報告会および展覧会見学者にアンケート調査を行った。

#### 【写真展アンケート結果】

回答総数: 49(男性: 19、女性: 30)

評価:

- ・マティグアスで活動を開始して1年の間に、プロジェクトを知る人が約三分の一いた。
- ・遺跡の存在が周知されていないこと。
- ・報告会・写真展などを通してプロジェクトや遺跡への関心を呼ぶことができる。

2017年をめぐりに2回目のアンケートを実施し、その変化をみてみたいと考えている。

#### アンケート調査の実施「ティエラブランカ地区におけるアンケート調査」

ティエラブランカ地区が考古学調査と博物館活動の拠点となる。また、地区のフアナ・アリシア・セルドン・フローレス小学校は京都外国語大学スペイン語学科がお手伝いする教育資材提供ボランティア活動の対象となっていて、子どもを通じた地区住民との接点でもある。

このティエラブランカ地区住民を対象として調査報告会とアンケート調査を2015年夏と2016年春の2回行っている。

1回目の調査では、文字ではなく図像で選択できるアンケートを作成した。ただ、質問事項にはほぼ全員がすべて「はい」をマークしており、こうしたアンケートの実施方法に課題があり、住民の意識調査についてはあらたな方法の開発が必要である。

2回目は、調査の現状報告の後、ANIDESによる将来のコミュニティ・ミュージアムづくりに関するグループワークを行った。参加者は55名。おもに30～50代の女性で多くが小学生の保護者ならびに縁者である。5～7人のグループにわけて進めたが、積極的にリードする人や読み書きができない人へのサポートがスムーズに行われていた。こうした活動が2回目というのもあったかもしれない。

報告会の途中で参加者への質問として聞いたところ、このプロジェクトが始まる前からフィンカ・ラスベガスにマウンドがあることを知っていたのは3人だった。こうした文化財が自身の生活と結びついていないことがわかる。しかし、グループワークの発表の中では、コミュニティ・ミュージアムに期待するものとして、子どもへの地区の歴史や文化についての教育を指摘していた。ここでは周辺の考古学情報(文化遺産)の住民への啓発という課題が明らかになったことと、子どもを対象とした活動を行うことで親や大人も巻き込んでいける可能性を感じた。

一方、コミュニティ・ミュージアムについても、どの程度正しく理解されているかは不明である。次回は「ミュージアムって何?」というプレゼンを実施し、ミュージアムに対する共通の認識形成に向けた働きかけをし

てみたい。

#### ワークショップによる活動

2014年からの2年間に4回のワークショップを開催した。マティグアス市内が2回、ティエラブランカ地区内が2回である。マティグアス市内のワークショップでは、マティグアス市長の要請もあってマティグアス郡内の地区リーダーを集めて実施した。ティエラブランカ地区では、小学校の教室を使い地区住民に対して行った。

マティグアス市内で実施したワークショップには、各地区のリーダーや市職員が2回で計約60名が参加した。ワークショップの内容としては、まず、CADIが実施してきたニカラグアとくにマタガルパ県周辺の考古学調査の成果を説明した後、プロジェクト・マティグアスの概要、最後にANIDESからは地域課題解決にむけた住民活動の重要性について解説した。そして、その後6~7人のグループを作っていくつかの課題について意見交換を行った後にグループの意見を発表した。

地区のリーダーへの課題は、各コミュニティ(地域住民)がこのプロジェクトにどのようにして貢献、協力できるか? どのようなことを約束できるか? の2点であった。グループワークの様子を見ていると、各リーダーの動きはスムーズでそれぞれの司会役についてもそつがないと印象を持った。こうしたワークショップ、グループワークに慣れていると思われる。

に対しては以下の意見に集約された。

- ・遺跡、遺物の報告、情報を提供する。
- ・知識、興味をもつ。
- ・組織(プロジェクト・マティグアス)と地域の連携をはかりたい。

に対しては以下である。

- ・遺跡、遺物を報告
- ・保護
- ・情報の公開・普及
- ・地主の説得

これらを見ると大変前向きな意見が多い。現時点ではプロジェクト・マティグアスについての知識が広がったということ、これがきっかけとなって各地の先住民文化の遺跡・遺物への関心が高まることが重要だと考えている。一方、「地主を説得」という回答があったが、背景に「遺跡があると国に土地をとりあげられる」という意識があることに他ならない。

#### (3)成果の国内外における位置づけとインパクト

ニカラグア考古学初の集落研究である。仮説であったカリブ海側と内陸部との交流が明らかになる研究として評価されている。

具体的に自身の地区内の遺跡の情報を提供する例が増えている。実際には発掘調査を実施しているティエラブランカ地区近辺からの情報が多い。これに加えて、行政機関の公的な裏付けがあるワークショップを開催

していることで、プロジェクトへの信頼度が高いことも考えられる。こうした動きを受けて、地域住民と協働した「キラグア山系西麓の遺跡情報マップ」作りを通して、先住民文化に対する理解を深める。地方自治体や関係機関などとの連携をはじめめる。

#### (4)今後の展望

ラスベガス遺跡の歴史的・文化財的価値の解明

将来の保存・活用のためマウンド主体部を調査し、祭壇の機能と構造を明らかにする。さらに発見された広場的空間を調査し、祭壇・モノリットとの関係を明らかにする。

#### 「コミュニティ・ミュージアム」づくり

地域の文化的価値を啓発・普及し、子どもへの教育支援、観光産業の振興による貧困対策への効果など地域住民への直接的な利益にむすびつける活動を行う。

文化財ガバナンス構築に向けたフィールドミュージアム活動

こうした活動をキラグア山系西麓で一体的に展開するためには、ハードとしてのコミュニティ・ミュージアムやあるいは遺跡博物館だけでなく、地域全体をミュージアムとしてとらえたマネジメントが必要になってくる。地域住民が主体となった地域の文化財の発見・保存・活用の仕組み(文化財ガバナンス)づくりである。さらに、地域課題の解決にむけた活動を継続的に実施するためには、地方自治体が重要な役割をもつ。地域の文化財に関わる課題の解決のために住民が主体となった活動を構築していくためも、地方自治体、自治体リーダーと連携しつつ、職員を含めた地域住民をフラットにつないでいく役割(NPO, NGO, 大学など)、人材の必要性とそこかわり方を考えていくことが重要である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

南博史、ニカラグア共和国プロジェクト・マティグアス 2015 年度研究調査報告、京都外国語大学ラテンアメリカ研究所研究報告、査読無、2016 年予定。

南博史、辻豊治、ニカラグア共和国プロジェクト・マティグアス 2014 年度研究調査報告、京都外国語大学ラテンアメリカ研究所研究紀要、査読無、2014、161-183

南博史、植村まどか、サグラリオ・バジャダレス、レオナルド・レチャド、プロジェクト・マティグアスとその成果、京都外国語大学国際文化資料館紀要、査読無、10号、2014、1-21

〔学会発表〕(計5件)

南博史、文化財ガバナンスの構築～ニカラグアにおけるプロジェクト・マティグアスをとおして～（パネル『文化遺産の創出と普及活動：人類学研究の新たな課題と挑戦』）、日本ラテンアメリカ学会第37回定期大会、2016年6月4日、京都外国語大学（京都府京都市）

南博史、中米における地域開発の現状と課題、第15回ラテンアメリカ研究講座/国際文化資料館第2回研究講座、2015年10月9日、京都外国語大学（京都府京都市）

南博史、植村まどか、El Proyecto Arqueológico Matiguás y su actividad en Nicaragua. ニカラグア国立自治大学第19回科学大会、2015年8月21日、マナグア（ニカラグア）

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.kufs.ac.jp/blog/department/elak-horebore/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

南 博史 (MINAMI, Hiroshi)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：00124321

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

村野 正景 (MURANO, Masakage)

京都文化博物館・学芸課・学芸員

植村まどか (UEMURA, Madoka)

京都外国語大学大学院・外国語学研究科異言語文化専攻・博士課程後期

### (5) 海外共同研究者

サグラリオ・バジャダレス・ナバロ

(NAVARRO, Sagarrio Balladares)

ニカラグア国立自治大学・考古学情報機関・教授

レオナルド・レチャド・リオス

(RIOS, Leonardo Lechado)

ニカラグア国立自治大学・考古学情報機関・研究員